

雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会
会議録（大村小学校開催分）

平成 2 5 年 1 1 月 2 1 日

雫石町教育委員会

平成25年11月21日雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を開催した。

場 所 大村小学校1階ホール

時 間 19時00分～20時40分

1. 出席者

一般住民 22人

報道関係者 1人（盛岡タイムス社）

2. 事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育委員長 上 野 宏

雫石町教育委員会教育委員 佐々木 浩 子

雫石町教育委員会教育長 吉 川 健 次

雫石町教育委員会学校教育課長 高 橋 啓 二

雫石町教育委員会学校教育課主査 田 辺 茂

3. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任 坂 井 一 博

4. 開会宣言

田辺主査 雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を今から始めさせていただきます。まず初めに教育委員長から挨拶。

委員長 夜分お忙しい中、お集まりいただき大変ありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、少子化の波が押し寄せ、全国同様、雫石町も予想よりも急激に児童数が減少。平成 24 年度、全町で小学生は 852 名。平成 25 年度 809 名、6 年後の平成 30 年は、700 名を切って 698 名の予想。この急激な減少で、10 校ある小学校も半数以上の 6 校が複式学級を抱える形になる。複式学級は、2 学年の子供達が一緒に学習や活動をするが、少人数のために同学年の子供同士で意見をぶつけ合う経験や多様な意見に触れ、色々な意見を広げる点では難しい。もちろん担任の先生が目が行き届き、一人一人を大事にした活動ができること、和やかな中で学習を進められるメリットもある。それ以上に集団で活動することの制限や、子供同士学び合う点では非常にマイナスとを感じる。

そこで雫石町は、適正化検討委員会を発足、平成 24 年度 5 回の会議で色々な視点から検討いただき、2 月に提言書をいただいた。それを踏まえ、教育委員会で 6 回の会議で色々検討し、その結果が本日の適正化の基本計画。私共は、子供達の学習環境をよりよいものにしたいと第一に考え検討した。色々ご質問やご意見をいただき、子供達の教育環境を考えたい。どうぞよろしくお願いいたします。

田辺主査 ありがとうございました。〔説明会参加の事務局の紹介〕

学教課長 〔以下、適正配置基本計画を資料に沿って朗読し、内容の説明〕

田辺主査 質問、発言については挙手をお願いします。ご質問ご意見何でも構いません。

参加者 私には小学生の子供がいないので学校で説明があったか分からないが、地区民には今日以外に何も説明がなく決定なのか。

学教課長 違う。あくまで教育委員会としての計画で考えていただきたい。これは、住民皆様の意見や地域性が入るとまた変わるので、教育委員会としては雫石町の望ましい計画として、子供にとっての教育環境を第一に考えた計画。

参加者 28 年度に統合とあるが、すごく急いでいる。別にそれにこだわるわけではないか。

学教課長 こだわるわけではないが、遅くなるほど教育委員会で考えた教育環境で子供達が過ごすのが遅れてしまうと捉えている。出来るだけ早い方がいいだろうと。

参加者 大村小は、ずっと複式でやっている。小学校で団体行動等ができないと大変な印象もあるが、やろうとすれば他校とでき、今まで不都合だったと思わない。中学校へ行っても大村の子供達はきちんとし、活動も活発で教育面もスポーツ面もそれなりにやっている。人口のことも出たが、極端な話、大きい方が減る。雫石小、七ツ森小、御明神小は特に。少人数のところは横ばい状態。どう考えるか。

学教課長 スポーツ少年団は一本でやれるが、体育の授業は 1 人 2 人では集団活動は出来ない。もちろん複式が駄目とは言っていない。それぞれの良さがある。ただ客観的に見て、ある程度人数がいれば集団活動はできて教育活動の幅は広がる。どの学校にも言えるが、中学校へ進んでも普通に馴染める子もいるが、そうでない子もいるかもしれない。教育活動の幅が狭まるのは子供にとってどうか。スポーツも学習も学習発表会も運動会も小人数でしかできないものになってしまう部分があるかと。人口は地区で周期がある。南畑小も逆に増える。その年度に生まれる子供の数の周期があるので、年齢の差も出る。10 人入っても次の年は 4 人となると、その 4 人の活動範囲は狭まる。集団活動ができない部分が出るかと。

参加者 今までも小規模校同士交流会等あるので、体育の授業等、そのまうまくできないか。最初から統合ではなく何か別に。大村にはここの地域柄の良さがあり、それをなくしたくない。地域の結びつきとか伝承活動とあるが、いざ子供がいなくなると厳しくなる。統合したら統合先の事情も出てくる。帰って来てもできなくなるだろうし、離れてしまうのでは。地域のことも考えて欲しい。

学教課長 地域を考えれば当然反対する方は多数いる。大村小は、今まで本当に地域に支えられて地域に根付いた学校と重々分かる。ただ、教育委員会として子供にとっての教育環境を一番に考えた。今回の計画を叩き台として出した。

参加者 本当にそれでいいか。人数が多くなるほど薄まるのではないか。

学教課長 小規模は小規模の、大規模は大規模の、過小規模は過小規模のメリットは当然ある。過小規模のメリットは適正規模や小規模ではデメリット。逆になる。

参加者 逆にデメリットを補填するようには考えられないか。ただ統合すれば良くなるとかでなく、良いところは良いところで統合させることはできないか。

学教課長 ただ統合ではなく、それを皆さんと話し合いながら詰めたい。

参加者 確かに去年の 9 月、新聞に載った。統合しますと。

教育長 検討委員会の案が教育委員会に提出されたものが新聞に掲載。そのままやるのではなく、提言を受けて教育委員会で話し合い、今回の基本計画となった。

参加者 いいえ。前回伝承館での会議の際、28 年 4 月 1 日に統合と言った。それは説明不足にも関わらず、もう統合するのでそれに従えという意味にしか捉えられなかった。もう少し地域に説明し、28 年に統合する予定で進めたいと持っていく方向だったら、統合予定だなと少しはわかるが、いきなり統合すると言われても、果たしてそれに対して納得できるかと。

教育長 町政懇談会は、検討委員会から提言を受けたということで説明した。

参加者 4 月 1 日に統合すると言ったが。

教育長 言ったことは認めるが、提言をいただいたと言っただけ。提言を受けて、今回の基本計画で 28 年に統合するとし、初めて教育委員会として言ったことになる。

参加者 でも地域なりに全然説明がなく、知らないところで進めていた。今までも色々

話してきているが、説明会は何もなかった。

教育長 説明会はない。検討委員会を立ち上げるので委員を公募します、応募してくださいと皆さんにはお知らせした。応募いただいて検討していただいた。

参加者 地域から何名出ているか。

教育長 町から公募したのは2名。その他は資料の一番後ろ、各小学校のPTAの会長、副会長など。ですから誤解があるが、教育委員会として平成28年4月に統合したいとは、今回初めて言うことになるので、そこは理解いただきたい。

参加者 あくまで検討委員会と。決定する機関ではないと。教育委員会の叩き台にするそれは我々も話は聞く。もし我々が反対すれば、その計画は白紙撤回されるか。

教育長 検討委員会から提言をいただき、我々教育委員で話し合い、今回提出して皆さんに意見をいただきたい。なぜ反対か、反対の理由が多くても白紙撤回になるかはわからないが、子供達のためにより良い方法だと思って我々は言っている。

参加者 それは教育委員会の考え方でこの地域に合った考え方ではない。説明の順番が狂って、我々に回ってくるのが最後。検討委員会委員も地域の決定権を持っている方でもない。色々検討はされても、まだ行政区に何もないと思うが、その辺はどうか。

教育長 そのとおりだと思います。

参加者 28年4月までに、できればもっと早く統合したい、子供達によりよい学習環境を整えたいと話されているが、それではまるで複式学級で習う今の子供達が悪い環境で育っているように聞こえてくるが。

学教課長 全くそういうことはない。複式が悪いとは言っていない。ただ、客観的に見て、ある程度集団の学習環境が子供達にとってはより良いのかなど。複式学級を有する学校は年々減少。盛岡でも来年度2校減。また、複式は教員技術の高さがかなり必要。そんな先生方がどんどん減る。こちらに転任にしてから、複式とはどういうものか何が必要か、研修もしながら自分の技術を何年もかけて高めなければならない。分かっている先生であればすぐ対応して素晴らしい授業をされると思うが、異動でまた別の方が来る。複式学級を経験する先生が減っている。

参加者 より貴重な環境になるのでは。先生がそれを経験できるのは先生にとっては大変プラスかと。小規模で複式のやり方を習ってもマイナスになることはないと思うが。

学教課長 先生方がこっちに来た後、子供達に教えながら何年もかけて技術を高める。最初から高まっている教員が配置されればそれなりの教育はできるが。特定された先生が小規模しか行かない人事は恐らくない。通常は6年で異動。

参加者 全員一気に異動はない。新しい先生が残っている先生に話を聞いてスムーズに行くのでは。

学教課長 授業は別々。教わっても授業は結局一人で進める。経験で積み上げるしかない。

その間どんどん技術は高められるが、あくまで自分で作り上げる部分が多い。

参加者 例えば、大村小を今まで見た先生とはずっと交流がある。不思議なくらい困っている先生はいない。大村小で良かったとそんな話を聞く。大村小に来て、複式になった先生は驚くが、複式をやったことがないからできなかったという話は聞かない。先生達の技量にも依るが、その技量がなければ先生にならないし、ある程度能力があるから先生なので、それなりのことはできるはず。できない人が先生な訳はない。

学教課長 駄目とだけで言っているわけではない。あくまで複式という方法。効率的なやり方は経験しなければ確立できない。最初はたぶん戸惑う。でもそれは出さない。

参加者 でも、その先生達のために複式学級の環境をなくす訳ではない。先生達も子供達のために先生になったのだから、より良い子供を育てるために努力は当然必要だと思う。

学教課長 もちろん努力はするが、確立するまでの時間がかかる。

参加者 そのために子供達、逆に言えば犠牲ではないが、そっちに行って勉強しろと、そういう形にするということか、要は。

学教課長 そういうことではなく、経験をしている先生がどんどん減っている。

参加者 複式が多くなればまた同じようなことになってくる。経験する先生が多くなる。

学教課長 来年、盛岡では外山と浅岸が統合、秋田県では複式は全くなく、どんどん統合してある程度の規模の学校にしている。岩手県には岩手県の雫石町には雫石町の考え方でやっていいと思う。雫石町では出来れば複式を有する学校がない規模の集団で子供達を育てたいと考えた。

参加者 子供達のためということは大変わかる。ただ、ここにも切磋琢磨と出ていて、小規模学級がテレビでも出ていたし、県の先代の教育委員長が、切磋琢磨するための統合とも話していた。確認だが、小規模校が切磋琢磨していないということではないですね。

学教課長 そうではなく、より多くの子供達と競争でき、集団での体育等も行える。

参加者 それぞれ良いところがあるが、大規模になればなるほどデメリットも大きくなる。雫石中がいい例で、統合になって荒れた期間があった。

学教課長 バイオリズムみたいな周期があって荒れる時期がある。

参加者 小学校の時点であるかならないかは分からないが、小さい学校だからいじめがない、大きい学校だからいじめがあるではなく、統合した時に町の対処方法は。3校集まれば各学校から色々出てくる。町としてどう対処するか。

学教課長 そこまではならないかと。それなりの先生も呼ばれますし、そういった先生で対応していかなければならない。遠くから来たからではなくて、1学級で経営しなければならぬ。そこまでは、地域性とか何かの違いということか。

参加者 地域性というか子供の性格の違いもみんな出てくるのではないかな。

学教課長 それはどこの学校も個々に違う。それが 1 校になったからどうこうというのは申し訳ないが、ちょっと理解ができない部分がある。

教育長 1 校になった場合、大村小やっている良いことがなくなると話されたが、私は大村小をモデルとしてやりたいと思う。ある曜日の放課後とか夜はこちらで今やっているようにスポ少活動、神楽の練習、南畑にも南畑の伝統があるから、地域に戻っての活動。そして、運動会や学習発表会は学年の出し物だけでなく、地域の出し物もやる。山祇神楽や堰賛太鼓とか。安庭小に統合になればこの校舎をどう使うか。跡地利用について、グラウンドは地域の皆さんに使ってもらう、ソフトボールなり野球なり消防の練習でも良い。地域のおじいさんおばあさんがホールに集まって使ってもいい。

それから、県道 1 号線のここを過ぎて沢内、湯田方面に向かった所は道の駅的な大きな施設はないので改造して使ってもどうかとも思った。ここの責任者が誰になるかは町と話さなければならないが、地域の方に責任を持って管理してもらう方法も出来るかと思う。今までの大村小と違うのは歩いて登校してきたのがバスを利用して安庭小に行って学習して帰る。大村小とか複式のある学校は大変良く、凄く良くやっている。勉強にしても。ただ、単式学級だと、一教科 130 時間なら 130 時間で教える内容を大村小では半分の時間。3 年生と 4 年生が同じクラスに入って算数の掛け算をやる。4 年生は割り算。半々にしか先生の指導が行き届かない。普通の学校では 130 時間で教えることを大村小の先生は 3 年生 65 時間、4 年生 65 時間で教える。一人の発言回数は非常に多いが、その 130 時間を掛けた学習が十分にできないかもしれない。また、団体スポーツを特別一緒に集まらなくても普通の体育、音楽にそれができる。1 学年 10 名以上いれば複式学級にならないので、大村、南畑、安庭と一緒にすればいいかと考えた。皆さんがよくご存知だと思うが、昔あった旧町村ごとに 1 校残る形で考えた。その辺ご理解いただければありがたい。

参加者 統合が決まれば子供達がいきなり行くのか、それとも心のケアみたいなものがあるのか。そっちに行けと言っても不安がってしまうから。

教育長 統合は平成 28 年 4 月の計画。26 年度中に統合の方向になれば 26～27 年度と 3 校一緒に行事、遠足、社会科見学、その他音楽、体育に集まる時間を増やしたい。それから、合同の運動会を行うなど学年同士の結びつきに慣れるようやって 28 年度を迎えたい。人数が小規模から中規模になれば、今までのように 1 人にかかる時間が少なくなるので、サポート教員のような人を増やしてもいいかと。

参加者 1 人にいじめられるのではなく、今度は 10 人以上にいじめられると言っている子もいて、少ない分には平気だけど、大人数にやられるのが怖いと。

教育長 そうならないよう先生方も、目配り気配りで指導している。

参加者 今の小学生は、3 校で行事をして何とか持っていくと。では、これから入学する

子供達はどうかと。大村にある便利なへき地保育所ではなく、御所の保育所に入れてもらい、その子供達は一緒に安庭小に進めるから、大村から安庭小へ行く場合と異なる。保育所から入った子供と幼稚園から入った子供とは、なかなか溶け込めないと感じる。例えば、雫石小だったら幼稚園から行った方がいいと聞く。そうすると小さい時から全く知らないところをとって御明神保育所とかに行く。通うのが大変だけれども保育所から多いところに行けば小学校に行ってもわかる人がいて不安もなくなるのでは。

教育長　今は保育所までは考えず、今の保育所なり幼稚園を生かしていただいて小学校からと考えているが、将来的にはそういう考えも出てくるかもしれない。ただ、今回の基本計画には、保育所、幼稚園は抜きにして考えた。

参加者　結局、小規模から大規模へ行った時に溶け込めるかで保育所を例として話をした。

参加者　統合前に交流を持って顔見知りにとのことだが、体育や音楽など少人数で出来ない団体行動を交流により補っていく考え方はないか。

教育長　そこだけが続けていくことは難しい。バスの配慮も必要になる。

参加者　年間スクールバスを用意する方法があれば、計画を立てられるのでは。

学教課長　それぞれの学校で教育課程として時間割を確保している。それを体育だけ週何時間と合わせての移動は、例えば業間時間が移動時間に。次の授業には影響するので、交流は月1回とか特定の授業を放課後授業としてやる形になってしまう。

教育長　できるだけ回数を増やし、28年4月に初めて会ったとならないよう、全然知らないではなく慣れればいいと思った。

参加者　安庭小は新校舎だが、体育館は古い。統合して人数が増えると体育館にしろ、グラウンドにしろ、規模的には小さくというか狭くなると考えられる。駐車場も含めて。

学教課長　安庭小の駐車場は別にある。グラウンドは以前の御所中のグラウンド。広さは小学校としては十分な広さ。学級は将来的な部分を踏まえ、基準面積があるので、それなりの面積。児童が増えても対応できる広さ。問題はやはり体育館。3校の中で一番狭くて古い部分がある。それは当然、建て替えを考えている。今は復興に重点があるのですぐはできないが、将来的には改築が必要と考えている。

参加者　お金がかかり過ぎるからという話に聞こえるが。

学教課長　全然積算していない。

参加者　2学年ごとに3カ所に分ける使い方は出来ないか。何かの時は一緒に集まると。

学教課長　校歌はどうするか、校章をどうするかとか。

参加者　校歌は統合していい。学年ごとに分校を置くイメージ、日本中から注目される。活用するならそのまま教育の場に使えばいい。変な話、聞いたことのない話ばかりだが。無理やり6学年一緒にいなくても、何かの時には一緒に会ってもいい。3

地域の人達もそんなに騒がないだろう。何が無理か、お金がかかるからか。

学教課長 そういう問題ではなく。ある程度、縦のつながりも必要。6年生が1年生の面倒を見るとか、それで子供達が相手を配慮する、相手を思う気持ちを育てるとか。

参加者 でも、いじめは少なくなる。6年生が低学年をいじめるとか、昔はそうだったから。

参加者 統合したら学校の名前は何か。「安庭小」そのままではないか。

参加者 「御所小」の可能性もある。

学教課長 その辺は、統合準備委員会の中でいいアイデアが出れば。募集するのもいいかと。

教育長 「小岩井」のようなものもあるかも。そこは、方向が決まったら考えたい。

参加者 正直な話、例えば子供達のためとは聞いていればわかるし、私達も子供のために話しているが、この統合にすごく手を入れるのは総務財政の問題があるか。

学教課長 ない。

参加者 一切ないか。

学教課長 ない。

参加者 3校では維持費がかかり過ぎ町の財政がおかしくなるから、1校にまとめるのではないと。

学教課長 もし、そうだとしたらここにかかった維持費と、統合後の積算した維持費の資料を出す。維持費を考えて統合を考えているわけではない。

参加者 今まで何回か説明会を町内で開いていると思うが、他地区の反応は。

学教課長 各論反対。やはり、地域から学校がなくなると子供達がいなくなる感覚をお持ちのところがある。そうならない手法も交えながら考えていかなければならない。あとはやはり説明不足の部分、いきなり新聞に載ったので。教育委員会議は公開しているので、報道の方に待ってくださいと言っても、報道する義務があると言われ止めることはできなかった。皆様への説明が遅くなって、本当に申し訳なかった。今日は、まず第1回目の説明会と考えていただき、何度でも足を運びたい。皆様から出された意見、要望を持ち帰って整理したい。

参加者 私は、今の雫石中が統合して第1回目の入学生。以前は大村中があって、統合といっても名目統合だったので、実際は雫石中には通わなかった。大村中の建物は無くなり、資料も無くなり、私達が中学校で活動した、ここで生きた証が何も残ってないと感じる。結局、大村中の歴史がもうそこで無くなってしまった。

同じように今回統合して、建物は残るかもしれないが、建物が残るから過去のデータはそのまま保存できても、なくなるような気もして寂しい。大村の歴史が一つ消える気がする。実質、大村中は消えたから。当時、大村中もスポーツなり教育なり色々盛んで記録を残して来たが、今一切残っていない。どこに行ったか誰も知らない。それは各中学校同じだと思うが、そういうことも考えて欲しい。

教育長 そうですね。指導要録等については保存期間が決まっており、何年か経過したら廃棄処分するが、卒業生台帳があるのでそれはずっと残る。学校の歴史の部分、それは大事だと思うので考えたい。

参加者 検討委員会に参加させていただいた。その時も言ったが、私はここで生まれ育って複式を経験して大きくなった。そこから仕事で大きいところに出て、自分の子供を大村小に入れたくて戻った。複式だったので小学校から中学校さらには高校へと学校から 1 人だったが、何ら問題なく溶け込むこともできた。むしろ中学校や高校で他の生徒が、こんなこともできないのか、分からないのかということが多かった。だから、自分の子供達はここへ入れたいと。恐らく農業をやりたくて都会の人が小さい時に来る例があると思うが、小さい時に学んだ地域で自分の子供を学ばせたいと思って戻ってくる例は、なかなかないと思う。そのぐらい私は大村小を出たことを誇り、というより大村小で学べば社会に出ても全然問題なくやっていける前提でそう思う。昨年度子供が小学校を卒業して中学生になったが、運動能力が劣っているわけでもなく、勉強は中間よりは良いし、全く普通に生活している。自分の子供を見ても私自身も、大きい学校で本当に子供達のためかということが私は未だに理解できない。子供達のことを考えてこれをやったことは地元の人達も分かっている。

これから 10 年後の、大村や上長山や橋場を考えた時に皆さんの頭の中にはどういうビジョンが浮かんでいるか。色々なことをやって、例えば、神楽をやるために何曜日に戻すとか書いているが、本当にうまく行って今より活性化しているビジョンが浮かぶか。これは、将来的なビジョンを見て決める問題だと思う。児童が少なくなれば、さらに小さくしなければならない。それよりも逆に 10 年後にこの地域に小学校が無くなった時にどうなるか。自分の近くに学校がないなら、仕事が滝沢だから滝沢に住んだ方がいいとなる場合もある。それで将来戻ってくるかという、そういう人は保育所が一緒だったからとそのまま小学校も滝沢で入る。区切りのいい中学校で戻って来るとか言っても、絶対にみんなと一緒に滝沢の中学校に上がる。高校も仲のいい子達もいるから滝沢から通うと。高校行き出したら全然増えることはない。このあたりを考えた結果の統合か。

教育長 そこまでのビジョンかどうかは分からない。私は今まで以上に地域との結びつきは強くなる感じがするが。

参加者 大村だけでなく南畑、安庭の地区とのつながりが強くなるということか。

教育長 南畑、安庭地区とのつながりもだし、地元とのつながりも強くなるかと。

参加者 では、学校がなくなることでここに入るはずだった子供達がいなくなるとは全く考えないのか。例えば、上長山小の家庭が下長山小になって、わざわざ山の中にいる必要がないから、もう下長山地区に行ってしまう例の方が多いのではないか。やはり学校があるところに人が集まると思う。別に統合に反対ではなく、将

来的なビジョンを持っていないと実際、子供達を育てているのは親達だし、子供達は行けと言えば行く。ただ、要はここに住む親達がどう思うか。ただでさえどんどん減っている。平成 31 年になれば総人口は 16,800 人。例え、第二次雫石町総合計画をやっても、その 8 年間でその 8 年後の 16,452 人が 16,800 人、350 人しか増えていない。どんなに第二次総合計画に取り組んでも引っ越しする人達が仮に出るのであればさらに減る。だから次の説明会で、これから入るだろう子供達の親御さん達にアンケートを取ってもらう。流動的な部分の問題でなく、統合に賛成か反対かだけでいい。あなたの地域に学校がなければ、あなたはそこに住むか、という単純なアンケートを取って欲しい。多分ほとんどの人が、違う人もいるとは思いますが、それだったら学校の通学は考えるという人がある。そこを全部把握して進めないと、地域に行って説明しても納得は得られない。学校がなくなること、地域に子供の声が聞こえなくなることは本当に大変なこと。細かなアンケートでちゃんと意見を聞き、次の説明会には資料を用意していただきたい。

学教課長 まず、平成 22 年、このまま大村小でいいと言ったご父兄は少なかったが 44%。

残りの 44%は近隣の学校の統合、町全体での適正配置についての学区の編成とか変更とか、その時は半分半分。

参加者 平成 22 年のアンケートは来た。世帯数も少なく、結果も概ね承知している

学教課長 そこまで話をしたのか。

参加者 どう書いたかお互い話して聞いて半々だなと。今は、今度入る子供達の問題。

学教課長 逆に、出ていくと言っておられるが、その前から住所を移して雫石小に通わせたいと区域外就学された方もいる。そうするとますます少なくなる。区域外、指定校外就学は簡単にできないので、住所があればこちらでは何も言えない。転居して 6 年間で戻る人も逆にいることは分かって欲しい。

参加者 はい。だが、これから入る子供達の親御さんには意見を聞いておいた方がいいと思う。自分達は関係ないと思っている人達もいるかもしれないし、これは直面する問題だということをアンケートによって提示した方がいい。

学教課長 アンケートについては、検討する。

5. 閉会宣言

教育長 夜の遅い時間にお集まり頂き、貴重なご意見をいただきありがとうございます。今日いただいたご意見は、再度、教育委員と話をし参りたい。私達の言いたいことは、現在の子供達にとってよりよい教育環境とは何かを考えてやったつもりですので、そこはご理解いただきたい。また説明する機会を設けるのでよろしくお願ひしたい。